



CESS<sup>1</sup>(Committee for Expertise of Shipbuilding Specifics=造船関係専門委員会)は、2012年8月23日に米国・アナハイムにて年次総会を開催した。日本、欧州、中国、韓国、米国の造船団体等が参加し、世界の造船業を取り巻く諸問題について議論を交わした。今次総会は米国の主催にて開催された。

年次総会では、過去1年間のCESS活動のレビューと今後1年間の活動計画の検討、並びに重要課題に対する業界共通の意見発信に向けたさらなる連携の模索について意見交換が行われた。

CESSメンバーはその協力関係を次第に強めており、これまでも海事産業間で直面する様々な重要課題においては、双方にとって現実的なソリューションを見出すため、相互認識を共有することの重要性を訴え続けてきている。

現在進行中の重要課題、とりわけ効果的なエネルギー効率設計指標(EEDI)の実施に向けCESSメンバーが貢献を続けているGHG排出削減問題に議論が集中した。EEDIの実施においては、実用的で効果的な解決策を見出すことが不可欠であり、スキームが円滑に機能することができるよう船主および船級との密な連携が重要であることが改めて認識された。

この他にバラスト水処理システムや、GBSの安全・環境規制要件と造船の知的財産保護とのバランスの両立など、造船業における環境に関連する諸課題についても議論が展開された。

2011年のパリMOU及び東京MOUのポートステートコントロール(PSC)の活動についても報告が行われ、両地域におけるPSC活動はこれまで同様、着実に成果を

---

<sup>1</sup> 旧称:サブスタンダード船排除委員会(Committee for Elimination of Substandard Ships)。2005年の中国・杭州で開催されたJECKU TEM以降、新名称に変更し機能を拡大し活動を開始。

CESS 2012  
Press Release

上げていることが報告された。また同報告では、造船に起因する船舶の欠陥件数がわずかな割合を占めていることが示された一方で、停船命令件数の増加が見られた。船舶の雇用確保が特に難しい昨今の状況下において、船舶の適切な修繕とメンテナンスの必要性を明確に示すものとなっている。

CESS メンバーは、将来の造船業界の繁栄にはメンバー間のさらなる結束が重要であり、直面する諸問題が業界にとって好ましい方向に効果的な解決が図れるよう今後1年間のCESS活動の更なる活性化の必要性を認識し、CESS活動を継続的にサポートしていくことに合意した。今次総会の結果は、2012年10月17～19日に米国・サンディエゴで開催されるJECKU TEM(造船首脳会議)で報告される。

CESS 造船関係専門委員会

委員長 岩本 洋(Dave Iwamoto)

(気付)一般社団法人日本造船工業会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-2-2

suzuki@sajn.or.jp